

海外水ビジネスの要点を探る

④ 第4回アジア・太平洋水サミット (APWS) の開催報告

日本水フォーラム 朝山 由美子

1. はじめに

日本水フォーラムが事務局を務めるアジア・太平洋水フォーラム (Asia-Pacific Water Forum: APWF) は、熊本市との共催で、「持続可能な発展のための水」実践と継承」というテーマのもと、第4回アジア・太平洋水サミット (Asia-Pacific Water Summit: APWS) を2022年4月23日(土)～24日(日)に熊本城ホール、およびオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

第4回APWS当日には、天皇皇后両陛下のオンラインによるご臨席を賜ることができました。ま

た、天皇陛下より、開式で、おことばを賜るとともに「人の心と水」信仰の中の水に触れる」と題した記念講演を賜ることができました。

また、開催国代表として、現地参加していただいた岸田文雄内閣総理大臣には、熊本城ホールで第4回APWSに参加いただき、開会挨拶に加え、首脳級会合において、基調演説をいただきました。他国からは、17カ国の首脳級、22カ国の閣僚級、9カ国の大使等、および、アントニオ・グテレス国連事務総長をはじめ、26の国際機関の長等に第4回APWSに参加いただき、水課題解決や質の高い

成長に関するステートメント等を述べていただきました。以下に、首脳級会合、およびテーマ別議論を通じた成果を報告します。

なお、第4回APWSのプログラム詳細、および、参加者の詳細については、日本水フォーラム(JWF)ホームページ(<http://www.jwf.or.jp/summit2022.jp/>)、開催目的や開催の背景については、水道公論2022年2月号を参照して下さい。

APWSの首脳級会合において、第4回APWSに参加した首脳級の全会一致で「熊本宣言」を採択することができたことです。「熊本宣言」は、水問題の解決と質の高い社会への変革に向けた首脳級の共同決意声明です。首脳級は、新型コロナウイルスにより広がる被害、その危機に対処する中で、水の重要性和意義を改めて認識し、コロナ禍からの回復において、強靱性、持続可能性、包摂性を兼ね備えた質の高い社会への変革が必要であり、取組みの加速に向けて、「ガバナンスを整える」、「資金ギャップを埋める」、「科学技術へ投資する」ことを宣言しました(概要:図1)。

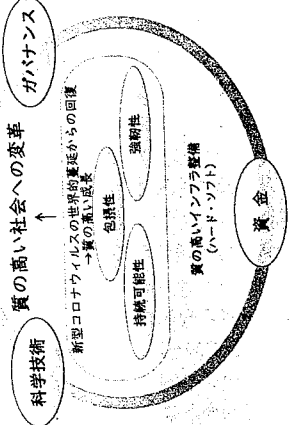
2. 首脳級会合「熊本宣言文書」の採択

第4回APWSの第1の成果は、4月23日午後開催した、第4回

第4回アジア・太平洋水サミット (APWS) - 熊本宣言

2022年4月23日、第4回APWSにてアジア・太平洋地域の18か国の政府首脳に(HSG)による水問題の解決と質の高い社会への変革に向けた共同決意声明・宣言

MAH APWS テーマ
持続可能な発展のための水 ~ 実践と継承~



- 水の重要性和意義を再認識する。
- 水分野におけるハード・ソフトを統合した質の高いインフラ整備を強化する。
- 健全な水循環を取り戻すことにより、災害に備え、多角的なSDGを達成し、国際河川での協力を強化する。

取り組みの加速に向けて

- ・ 水に関わる多くの機関、市民社会が分野と世代を超えて連携し、協力体制を強化し、水問題を解決し、緊密な各流域の協力を事例を共有する。
- ・ 成果に貢献するため、水投資を奨励する。
- ・ 各流域において投資を動員する。
- ・ 地域の自然環境、地理的特性や歴史の経過を尊重し、発展段階に応じた水問題解決のため、科学技術の提供を要する。
- ・ 各世代の水の専門家への教育や能力強化を行う。

※ 日本政府より発表された熊本水イニシアティブを詳細し、支持する。

図1 第4回APWS成果文書「熊本宣言」概要

「熊本宣言」文書の採択にあたっては、オンライン準備会合や外交ルートを通じて、第4回APWSの対象国すべてに、外交ルートを通じてドラフト文書を共有し、コメントや修正案を求め、アジア太平洋地域の各国が宣言文書ドラフトを確認し、修正案等を共有し合うことで、各国がオンラインシップを持った宣言に仕上げる事ができました。

- 「熊本宣言」全文ダウンロード先
- ・ 熊本宣言英語原文 : <https://www.waterforum.jp/pdf/other/KumamotoDeclaration.pdf>
 - ・ 熊本宣言日本語版訳 : https://www.waterforum.jp/pdf/other/KumamotoDeclaration_jp.pdf

3. 「熊本水イニシアティブ」

第4回APWSの第2の成果は、首脳級会合において、岸田文雄内閣総理大臣が基調演説を行い、「熊本水イニシアティブ」を発表したことです。この熊本水イニシアティブの中で、岸田内閣総理大臣

は、水問題の解決策の一つとして、わが国は、アジア太平洋地域における水を巡る社会課題に対し、気候変動適応策・緩和策両面での取組みの推進、および、「質の高い水供給・衛生施設整備」を含む基礎的生活環境の改善等に向けた取組みの推進の2項目を柱に、官民協働により、デジタル化やイノベーションを活用してわが国の先進技術を活用した「質の高いインフラ」整備等を通じて、アジア太平洋地域の質の高い成長に積極的に貢献すること、そして、その実現に向けて、今後5年間で5000億円以上の支援を行っていくことを表明しました。

熊本水イニシアティブに対しては、アジア太平洋水サミットの首脳宣言文「熊本宣言」の中で参加首脳からの支持が表明され、同イニシアティブはアジア太平洋水サミットの3つの主要成果「熊本成果」(Kumamoto Outcome)「熊本宣言」、議長総括「熊本水イニシアティブ」の1つに位置付けられました。

「熊本水イニシアティブ」に基づき、各官庁は、「インフラシステム

海外展開戦略2025(令和4年6月追補版)において、「日本が優位性を持つダム運用改善や改造等の気候変動適応策・緩和策を両立するハイブリッド技術や、水災害リスク評価等の技術・経験を活用して、対象国との対話等を進めつつ、わが国企業の活躍の場の形成やこれら技術等の社会実装へと繋げていく。また、3L水位計(危機管理型水位計)を含む水位情報システム等の水・防災分野におけるインフラシステム海外展開を引き続き推進する」ことも公表しました。

交通省ホームページ
熊本水イニシアティブ資料・参考資料
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr2_000034.html

4. 第4回APWS議長サマリー

3つ目の成果は、第4回APWS

Sの9つ分科会、2つの特別セッション、4つの統合セッションに携わった国内外の機関に「持続可能な社会」「強靱な社会」「包摂的な社会」の実現に向けて、ガバナンス、ファイナンス、科学技術の観点から、アジア太平洋地域の質の高い成長に向けた明確な道筋と実践的な行動を示していただき、熊本宣言の一部となる「第4回議長サマリー」を取りまとめたことです。9つの分科会共催機関には、水関連SDGsを達成し「質の高い成長」を確保するための配慮事項を明示していただいたほか、「質の高い成長」を支える「質の高いインフラ」をハードおよびソフト両面から着実に整備していくために必要な行動について、科学技術、ガバナンス、ファイナンスの観点からアジア太平洋地域の先進事例を共有しつつ議論していただき、各国の状況に応じた課題解決へのアプローチ、および政策提言を発信していただきました。

「第4回APWS議長サマリー」は、持続可能な社会に向けて、統合水資源管理に基づく流域全体の水管理を行い、健全な水循環を回

復・維持するために、領域や異なるレベルのセクター間を越えて協働し、多様な気候、地理、社会経済的条件に合わせることで、強靱な社会に向けて、観測、モデリング、データ統合に焦点を当てたオープンサイエンス政策を加速しながら、健全な水循環を促進し、エンドトゥエンドのアプローチをとりながら領域や異なるレベルのセクター間を越えて協働すること、包摂的な社会に向けて、技術、イノベーション、データの分野で若者が解決法を提供し専門性を発揮できるように後押しし、若者の有意義な参画(Sea-Engage-Engage:MYE)を奨励、着手、支援し、あらゆるレベルで若者-政府間パートナーシップを強化すること、等が提言され、アジア太平洋地域、および世界各国、国際社会が課題解決にむけてより一層コミットメントすべきであることを提言しています。

「水供給」に関する分科会は、国際協力機構(JICA)・ウォーター・インテグリティ・ネットワーク、国連ハビタットが、SDGs 6.1の達成に必要な原則を理解

し、今後の都市水道に必要な具体的な行動とグッドプラクティスを提示しました。様々な投資モデルを醸成し、ガバナンスの改善を促進し、「持続可能な料金モデル」を推進することにより、負しいコミュニティやインフォーマル居住地の住民を含むすべての人々に、安価な水を提供することが必要であることを提言しました。

第4回APWS議長サマリー全文: https://apwf.org/apwf_wp/wp-content/uploads/2022/06/0424-Chair-Summary-Final.pdf
各セッションの共催機関、及び、提言の概要: <https://www.waterforum.jp/news/19559/>

5. アジア太平洋地域の質の高い成長に寄与する先進事例 - ロードマップ集

熊本宣言や熊本水イニシアティブや第4回APWS議長サマリーに加え、アジア太平洋地域の質の高い成長に寄与する先進事例。

ロードマップ集を第4回APWSの際に出版・公表することができたことも第4回APWSの重要な成果です。各分科会主催機関が、各分科会で紹介された先進事例の一部、および、分科会では時間の都合上紹介することができなかった「質の高い成長」に寄与する先進事例を、「第4回APWS先進事例・ロードマップ集」としてまとめられています。

「第4回APWS先進事例・ロードマップ集」
JWF
https://www.waterforum.jp/pdf/other/4APWS_Showcases_Roadmaps.pdf

6. 第4回APWSにおけるユースの活躍

第4回APWSでは、九州・沖縄の高校生を含む、アジア・太平洋地域のユースたちが活躍したことも、日本で開催された国際会議の中では特筆すべき貴重な成果です。ユースによるリーダーシップ、

イノベーションに関する分科会を開催し、福岡の高校生を含む、アジア・太平洋地域のユースが、アジア・太平洋地域における水の安全保障とレジリエンスの為の有意義な若者の参画・持続可能な成果の為の世代間パートナーシップに関する議論を行ったほか、「水源から海までの水と環境」「水と貧困・ジェンダー」「水と平和と文化」に関する分科会では、国内外の大学生が、みずからのフィールドワークと学術研究の融合を通じて得られた成果を発信しました。また、閉会式では、アジア・太平洋地域のユースの代表(インド)と九州から福岡の高校生の代表が、アジア・太平洋地域のユースからのメッセージを発信しました。ユース代表者は、「アジア太平洋地域は、世界の若者人口の60%を占め、この貴重な資源を最大限に活用する時期に来ている」ことを言及しました。若者は、将来にわたって、持続可能で、包摂的、強靱な社会を構築していくうえで重要な役割を担うことから、各国は、「若者の参加と有意義な行動のための運動を作ること、技術、イノベ

ーション、データの分野で若者が解決法を提供し専門性を発揮できるようサポートをし、若者の有意義な参画を奨励、着手、支援すること、あらゆるレベルで若者-政府間パートナーシップを強化しながら、若者の意思決定プロセスへの参加を促し、イニシアティブが発揮できるよう、安全で働きやすい場を作り、あらゆる段階で若者と多様な利害関係者が協働していくこと」を求めました。

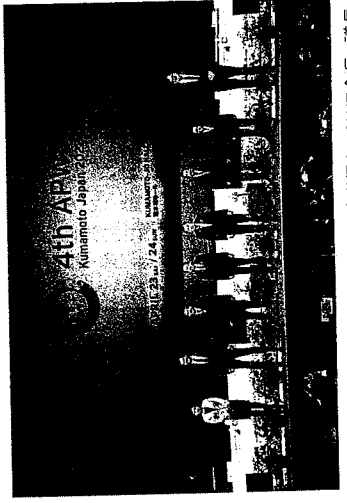
7. おわりに

第4回APWSの事務局を務めた日本水フォーラム(JWF)にとっては、新型コロナウイルス感染症の感染数、およびその対策動向を見据えながら準備を推進することに苦慮しつつも、熊本市、および、日本政府の協力を得て、多様な関係者と一丸となって準備を行い、熊本城ホール、および、オンラインで、無事開催することができたことが何よりの成果です。

第4回APWSの開催に

向けて、JWFに協力をして下さった皆さま方に心から感謝を申し上げます。

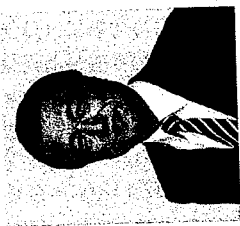
今後、JWFは、水供給と水資源管理、水防災分野の政策決定者、専門家、実務者と協働の機会を構築し「熊本宣言文書」「第4回APWS議長サマリー」で取りまとめた政策提言の実装、および、「熊本水イニシアティブ」の実施に寄与していきます。JWFの活動に引き続きご協力・ご指導をいただきますようお願い致します。



第4回APWSに熊本で参加をした首脳級とAPWF会長・議長・副議長の写真

器に随いて主になれば皆真なり

福井 照



-4-

十二 ときのいのち

「と」は時空を表します。「き」とは、気であり、エネルギーを表します。漢字の読み解きでも風の流れのいのちの起源とあります。ときは時間だけでなく宇宙の本質を表す言葉です。とき文明時代に入ってきたという意味は、量子力学的世界観を背景として人類の今ここにいること、今ここにあることの意味を、これまでとは全く違う捉え方を始めたということですね。

表題の器も、ものを入れる箱のようなものを表しているのではありません。時空そのものを言うのです。時空も物理現象です。アインシュタインの「エネルギーは時空そのものである」とする数式の発見から120年が経ちました。飛び飛びですが、量子の現れ方には因果があります。

entanglementです。星占いも、過去の宇宙と今がいかにかentangled elementとされているかを知ることができます。風水論は言うまでもありません。龍脈に氣の流れを見るものです。大地からエネルギーを政治

の意思決定にそのまま活かすものです。

権力は、ときの発見と発明から始まりました。農耕と祈りの始まりと終わりを、王様は民に指し示しました。カレンダーを作ることが、現代でも政治権力の源泉です。

ときと言う言葉は誠に深いです。ひとつも深い、そして息も深いのです。ヘブライ語で宇宙の本質をネフェシエ、つまり息という言葉で表すということに、改めて合点しました。いのちも深いです。「い」は息、「ち」は靈なるもの大きい存在からの教えという意味です。生物学的な生命の定義は横に置いて、いのちの定義とは息で宇宙全体と繋がっていること、靈性を感ずることにより大存在と通っているという実感を持つことです。

デザインの語源も神の意志、すなわち「ザイン」をこの世のものに再現するということ。デザイン思考は、people centered approachです。このときのpeopleとは、このように宇宙とも大存在とも繋がっているのです。子どもも、まんなか政治の創造を標榜したのも、子どものいのちという本を上

梓したのも、このような理由による場所です。

子どものいのちは永遠です。無限の可能性を秘めていること、未来を決して断つてはならないのです。みずのいのち、子どものいのち、ときのいのちを大切にしながら国に命を吹き込む政治をこれからも続けていきたいと思えます。

十三 こともまんなかのちかい

こともまんなか政治の、独立宣言のようなものを昨年から考え続けています。6月号に続いてその後半をご紹介します。

5. こともまんなかの精神は、祖先も親も敬い、見守りに感謝し、お互いに笑顔であいさつできる関係を大切にします。早寝早起き朝ごはんなどのすくすくと育つ生活環境を身につけます。
6. こともまんなかの精神はことも深い愛情に包まれ絶対的な自己肯定感を持ち、自分を受け入れ、自分を信じる心を持ち、子ども同士がお互いに学び合い、高めあうことを大切にします。
7. こともまんなかの精神は、こともひとりひとりに寄り添いなが

海外水ビジネスの眼

第4回アジア太平洋水サミットが熊本で開催
コロナ禍で、前日まで各国元首、首脳級の来日予定が混沌としていたが、結果的には30カ国の参加があり、首脳級会議場には約700名、会場全体で3000名を超える参加があり、大成功であった。日本水フォーラム、熊本市のスタッフの日夜を徹した努力に感謝申し上げたい。以下は会場での感想である。
ユースの活躍が素晴らしい
私が会場で感銘を受けたのは、若い人、小学生から大学生まで（高校生の活躍が目立った）ユースの水に関する意識の高さであった。
ユース水フォーラム「くまもと」の高校生のプレゼンでは、

自ら経年的に地下水を調査し、専門用語も活用しSDGsまで言及していた。

多彩な分科会

分科会、私は2日間で6カ所の分科会に参加、①水と災害 ②水と貧困 ③水と食料、④地下水を含む健全な水循環などに多くの参加者が見られた。すべて英語であったが、国際機関の勤務時代を思い出して楽しい時間だった。

ハイレベルステートメント

ハイレベルステートメントでは、各国の国家元首や大統領、副大統領のビデオメッセージが主体だったが、生の声を聴くことができた。サモア、キリバス、ト

ンガ王国、ネパール、アルメニア、ナウル共和国、特にタジキスタンのラフモン大統領の演説は「わが国には8000以上の水河があったが、既に1000以上の水河が消失している。世界は、島嶼国（国が海に沈む）だけではなく、山岳国の温暖化被害にも関心を持つべきだ」と、印象に残った発言だった。

サイドイベント
サイドイベントのシンポジウムでは、地元熊本県、熊本市、くまもと地下水財団、肥後の水と緑の愛護基金が連携し、世界に誇る地下水保全の取組みを発表

第4回APWS 熊本水イニシアティブのゆくえは？

が素晴らしいかった。
熊本イニシアティブのゆくえは？
最終日には「熊本水イニシアティブ」が採択された。

その骨子は

1. 気候変動適応策・緩和策画面での取り組みの推進 ①質の高いインフラの整備推進、②観測データの補完への貢献、③ガバナンス（制度・人材・能力）への貢献、④2国間クレジット制度（J-CM）の活用・拡大。
2. 基礎的な生活環境の改善等に向けた取り組みの推進 ①質の高い水供給の整備推進、②質の高い衛生設備の整備推

進である。
さらに岸田総理は、これらの実施のために「日本は5年間で5000億円を支援する」と宣言した。

このように国内的には、「第4回アジア太平洋水サミット」は大成功と思われるが、国際機関勤務の経験では、必ず大きなイベントやプロジェクトでは、1年後、3年後、5年後のトラッキング（事後の追調査報告など）が義務付けられている。前回ミャンマーで開催第3回アジア太平洋水サミット（2017年12月）ではヤンゴン宣言（Yangon Declaration）が採択され世界中にPRされたはずであったが、海外の英文サイトや国際機関のライブラリーで検索したら、ほとんど出てこない。出てきたのは、国連本部の経済社会局（UN・DESA）のSDGsウォーターハブとIISD（International Institute of Sustainable Development）だけである。ミャンマーは、その後軍事政権となり、フォローが難しいが今回の成果の一つである「熊本宣言」と「熊本水イニシアティブ」が、今後どのようにアジア太平洋諸国や世界に影響を及ぼすのか、来年3月に国連で46年ぶりに開催される世界的な水会議でどのように取り上げられるのか、「勝った」「勝つた」の大本営発表にならぬように、水関係者や日本水フォーラムだけではなく、日本国を挙げて「グローバルな眼」でウォッチすべきであろう。（現場人）